

# ディケンズ・フェロウシップ日本支部

The Dickens Fellowship of Japan

2017年度春季大会

ディケンズ・フェロウシップ日本支部

Spring Conference 2017

Programme

日時：2017年6月10日（土） Date: 10 June 2017  
会場：松山大学 文京キャンパス 東本館7階 会議室1

(松山市文京町4-2)

Venue: Conference Room 1, 7<sup>th</sup> Floor, East Main Building, Bunkyo Campus,  
Matsuyama University, 4-2 Bunkyo-cho, Matsuyama, Ehime

理事会 Board of Trustees Meeting (14:00 – 14:30) 文京キャンパス 東本館7階 会議室3

## 開 会 Opening Address (14:35 – 14:40)

佐々木 徹 (ディケンズ・フェロウシップ日本支部長) Toru SASAKI

(President, Dickens Fellowship of Japan)

## 第 1 部 研究発表 Short Paper Session (14:40 – 16:20)

司会：松本 靖彦 (東京理科大学) Yasuhiko MATSUMOTO (Tokyo University of Science)

1. 大前 義幸 (日本大学) Yoshiyuki OHMAE (Nihon University)

『ニコラス・ニクルビー』と『坊ちゃん』

——漱石作品におけるディケンズの影響を追って——

*Nicholas Nickleby and Botchan: Dickens's Influence on Soseki Natsume*

2. 村上 幸大郎 (宮崎公立大学) Kotaro MURAKAMI (Miyazaki Municipal University)

Pierce Egan と Dickens

—— *Life in London* と Dickens の初期作品における演劇的ビジョンについて——

Pierce Egan and Dickens: Theatrical Representation in Dickens's Early Works

## 第 2 部 講 演 Lecture (16:40 – 17:40)

司会：鵜飼 信光 (九州大学) Nobumitsu UKAI (Kyusyu University)

講師：山本 史郎 (東京大学) Shiro YAMAMOTO (University of Tokyo)

翻訳とは何を訳すのか？

—— *Oliver Twist* から読み取れるもの ——

What We Translate When We Translate: Some Aporias in *Oliver Twist*

## 懇親会 (18:30 – 21:00) Convivial Party

会場：郷土料理 五志喜 (松山市三番町3-5-4 伊予鉄道城南線 大街道駅徒歩5分)

会費：5,000円

## 第一部 研究発表 Papers

『ニコラス・ニクルビー』と『坊ちゃん』  
—— 漱石作品におけるディケンズの影響を追って ——

日本大学非常勤講師  
大前 義幸

『ニコラス・ニクルビー』は1838年3月から1839年10月にかけて、月刊分冊で刊行された、ディケンズの三作目の長編小説である。しかし、多くの研究者が指摘しているように、この作品は、物語の前半と後半を除けば、作品内容が整っていない物語だと論じられている。

一方、当時、イギリス文学を研究していた夏目漱石が、1906年に『ホトトギス』で発表した『坊ちゃん』は、漱石作品の中でも珍しく、当日の教育問題や教師の資質、実態を鋭く、時にはユーモアを交えて書かれた作品である。とは言え、『ニコラス・ニクルビー』と『坊ちゃん』の関係は、既に松村昌家氏によって漱石が受けた影響が随所に見られる作品であることが論証済みである。しかし、両作品のテーマである「教育」や「教師の資質」などを含めて、いまだ論証済みではない箇所が見られると思う。そこで本発表では、松村昌家氏の論文を再考察し、指摘されていない箇所を比較考察したうえで、ディケンズが夏目漱石に与えた影響を論じていきたいと思う。

### Pierce Egan と Dickens

—— *Life in London* と Dickens の初期作品における演劇的ビジョンについて ——

宮崎公立大学助教  
村上 幸太郎

Pierce Egan の *Life in London* は、トム、ジェリー、ボブの三人によるロンドン見聞録とも言うべき作品である。彼らが訪れる場所は Almack's や仮面舞踏会といった上流階級の社交場から拳闘場や下層民が集まるパブ、果ては乞食の集会に至るまで多岐に渡るが、Egan は演劇用語を頻繁に用いて、情景を見世物のように描いている。

もちろん、目に映る街の情景を劇の一場面に見立てて、面白おかしく描くのは Dickens の得意とするところであり、両作家の共通点と言えるだろう。そこで本発表では、しばしば *Sketches by Boz* の先駆的作品などと言及されながらも詳細に論じられてきたとは言い難い *Life in London* を *Sketches by Boz* をはじめとする Dickens の初期作品と比較し、Egan の描くロンドンの姿が作家 Dickens のスタイルの確立に与えた影響について考えてみたい。

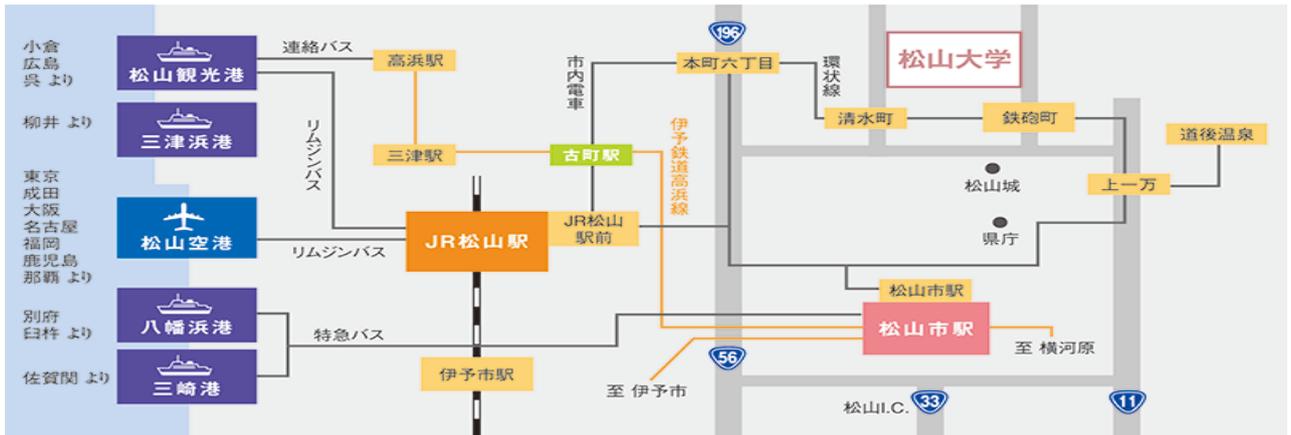
## 第二部 講演 Lecture

翻訳とは何を訳すのか？  
—— *Oliver Twist* から読み取れるもの ——

東京大学教授  
山本 史郎

すぐれた文学作品を読むとき、読者は文字に目を走らせ、表層の「意味」の流れに身を任すいっぽうで、それと同時に様々な感情、解釈、マイナーな情報などを受け取り、多くの場合気分や情緒に影響を受けつつ、意識の周縁を通過させながら読み進める。文学の翻訳という作業は、「意味」を正確に汲み取ることが出発点であることは言うまでもないが、このように意識の周縁を流れていくものを発掘し、取捨選択し、どのように表現するかを考えることである。『オリヴァー・トウィスト』から3つの有名箇所（オリヴァーの誕生、オリヴァーのお仕置き、ローズメイリー登場の各場面）、を取り上げ、そこから何を読み取ることができるか、翻訳者がそれにどう向かうべきかを考え、翻訳とは何かという大問題をかいま見る。

## アクセスマップ



【住所】 790-8578 愛媛県松山市文京町 4-2 Tel: 089-925-7111(代)  
4-2 Bunkyo-cho, Matsuyama, Ehime, 790-8578

## 【交通アクセス】

鉄道	松山市駅	伊予鉄道 市内線電車	2番環状線(大街道経由) (20分) ▶ 1番環状線(古町経由) (15分) ▶	鉄砲町	徒歩(5分) ▶	松山大学 正門
	JR松山駅		1番環状線 (10分) ▶			
	古町駅					
飛行機	松山空港	松山空港リムジンバス	(15分) ▶			JR松山駅
船	松山観光港 (小倉・広島・呉)	観光港リムジンバス	(20分) ▶	高浜駅	郊外線(15分) ▶	JR松山駅
	三津浜港 (柳井)	路線バス	(約40分) ▶			古町駅
	八幡浜港 (別府・臼杵)	タクシー	(3分) ▶	三津駅	郊外線(10分) ▶	古町駅
	三崎港 (佐賀関)	特急バス	(1時間44分) ▶ (2時間44分) ▶			松山市駅
高速バス	三ノ宮(兵庫)	高速バス	(4時間15分) ▶			松山市駅
	高松(香川)		(2時間45分) ▶			JR松山駅
	高知		(2時間43分) ▶			
	徳島		(3時間18分) ▶			
	岡山		(2時間55分) ▶			
福山		(2時間54分) ▶	新尾道駅経由			

## キャンパスマップ



大会会場 7階 会議室1  
理事会会場 7階 会議室3

<懇親会会場地図>



郷土料理 五志喜 松山市三番町 3-5-4 Tel: 089-933-3838

\*懇親会場へは、鉄砲町駅より伊予鉄道市内線1系統・松山市駅行乗車、  
大街道駅を下車後、徒歩5分です。